

地域密着型サービス事業者 自己評価表

(認知症対応型共同生活介護事業所・小規模多機能型居宅介護事業所)

事業者名	グループホーム金さん銀さん(金さん)	評価実施年月日	平成21年12月30日
評価実施構成員氏名			
記録者氏名		記録年月日	平成22年1月5日

北海道

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念の共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らしていくことを支えていくサービスとして、事業所独自の理念を作り上げている。</p>	○	<p>地域の行事への参加を継続していくことで馴染みの関係ができ、地域の人々との交流を深めていく。</p>
2	<p>○理念の共有と日々の取組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる。</p>	○	<p>理念を実践していこうという観点を職員全員がもつと共に、実際に行なったケアに関して出来ていたかどうかを意識し、日常的に振り返りを行う。朝礼時、申し送り時の中でも、具体的ケアを理念に照らし合わせ確認できるようにする。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる。</p>	○	<p>定期的に継続して行っていく中で、家族や地域の方々に、よりグループホームを理解していただけるよう、来訪時に、コミュニケーションをより多くとるようにする。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている。</p>	○	<p>地域の行事への参加が定期的に行えるようにし、気軽に立ち寄ってもらえるように心がける。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている。</p>	○	<p>運営推進会議に地域の方々に参加していただくことで、グループホームの様子を知っていただける。また、様々な地域の活動への参加により、地域の人々との意見交換が出来るため、今後も継続していく。</p>
6	<p>○事業者の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる。</p>	○	<p>運営推進会議にて、家族や地域の皆様にホームの様子等の情報発信をしていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
3. 理念を実践するための制度の理解と活用			
7	<p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。</p> <p>評価結果については、全職員に報告されている。自己評価することで、自分たちの改善すべきことが明確になり、改善に向け取り組んでいる。</p>	○	自己評価・外部評価を行なうことで気づきがあり、評価結果から具体的な目標に向け取り組みを継続したい。
8	<p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p> <p>2ヶ月に1度地域の方々に参加して頂き、情報の交換や取り組みの状況などを報告している。なお、話し合いの内容については、職員勉強会などで職員に伝達し、サービスの向上につなげている。</p>	○	家族や地域の方々が会議に参加されることで、外部からの声を聞くことができる。今後も定期的な実施に向け取り組んでいきたい。
9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会を作り、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる。</p> <p>運営推進会議に深川市役所からオブザーバーとして出席を頂いている。その他、地域ケア会議などに出席し、サービスの向上に取り組んでいる。</p>	○	ケア会議への参加を継続し、市の担当者に、積極的に運営上の相談をしていく。
10	<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している。</p> <p>管理者は権利擁護や成年後見人制度の研修を受けているが、職員が権利擁護について学ぶ機会を設けることができていない。情報が必要と思われる利用者や家族への対応は、現在管理者が行なっている。</p>	○	全職員が権利擁護事業や成年後見人制度について学ぶ機会をもつ。
11	<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。</p> <p>高齢者虐待防止関連法については、学ぶ機会が少なく、全員が理解しているとは言えないが、ホームでの勉強会や、身体拘束委員会などで取り上げ、虐待を見逃すことのないよう注意し、防止に努めている。日頃の利用者の精神状態や、皮膚の状態などからも判断できるよう日常的に観察を行い、申し送りの際、職員間で話し合っている。</p>	○	年1回以上学習会を実施し周知徹底を図る。
4. 理念を実践するための体制			
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p> <p>相談受付時から家族や本人の不安が軽減できるよう、サービス内容から料金、ご家族がもっている疑問等に対し、詳細な説明を行っている。契約を結ぶ際には、管理者が契約書・重要事項説明書をもとに、更に詳細な説明を行ない、ご本人とご家族の納得を得るよう配慮している。</p>	○	契約書・重要事項説明書の説明を全職員ができるようにする。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
13 ○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱の設置や運営推進会議に参加していただき、意見や不満、苦情があれば気軽に発言していただけるようにしている。	○	利用者の言葉や態度から思いが理解できるようコミュニケーション能力を更に養っていきたい。
14 ○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている。	毎月担当職員から日常の様子やお知らせを発信し、ホームの様子を報告している。通院後は、通院同行者より電話での報告を行なっている。職員の異動等に関しては、運営推進会議の活動報告で報告し、担当利用者変更の場合は、家族通信で報告している。	○	家族会の設置に取り組んでいきたい。
15 ○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情等を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご意見箱の設置や、家族宛ての無記名アンケートを実施している。また、運営推進会議ご家族にも参加いただいている。しかし、現在、家族会がないため、家族同士の意見が出し合える機会が十分ではない。	○	家族宛ての無記名アンケートへの実施を継続していく。
16 ○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回、職員全体会議を開催し、意見や提案を聞く場を設けている。管理者は運営者に結果を報告し、反映させるよう努めている。	○	定期的な面談を実施し、職員の提案に耳を傾け、業務改善できるところは積極的に取り組んでいける環境作りを行なっていきたい。
17 ○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保する為の話し合いや勤務の調整に努めている。	利用者の状態・状況等、必要に応じ時勤務体制の変更を行なっている。	○	行事では柔軟な対応ができるよう、職員を多く配置していきたい。
18 ○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。	基本的には職員をユニット固定する等、馴染みの関係での支援を基本としている。異動等は最小限に抑える配慮を行なっているが、やむを得ない退職、異動の際には、利用者に説明を行なう等、利用者への環境変化に配慮している。	○	職員の退職届は2週間前に申請するようにし、早めに新人を採用。引き継ぎを行えるよう取り組みを行なう。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。</p>	<p>外部研修の開催情報を職員に提供し、自発的な研修参加を促している。研修終了後は研修報告を会議の場で発表し、更に報告書を全職員が閲覧できるようにしている。新人研修については、研修プログラムに基づき新人教育を行なっている。</p>	<p>○ 資格取得のための研修受講については、休日を取りやすいように配慮している。</p>
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワーク作りや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。</p>	<p>地域の同業者主催の講演に出席したり、グループホーム協議会の研修に参加し、交流する機会を持ちサービス向上のために取り組んでいる。</p>	<p>○ 他グループホームへの見学および交流の機会を作っていきたい。</p>
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる。</p>	<p>職員の休憩できる場所の確保をしているが、くつろげる環境ではないため、今後環境改善を行なっていきたい。</p>	<p>○ 休憩場所の環境改善を図る。日常的に職員のストレスや悩みを把握できるよう努めていきたい。</p>
22	<p>○向上心をもって働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心をもって働けるように努めている。</p>	<p>義務としての研修と、受けたい研修を、職員本人との相談や話し合いにより、調整を行いながら進め、職員の資格取得に向けた支援を積極的に行なっている。(金銭と休みの補助)</p>	<p>○ 講習会や研修の情報提供を継続し、サービスの質の向上に努めていく。</p>
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>必ず事前面談を行い、心身状況や本人の思いに向き合い、ご本人に受け入れられる関係を築くことができるよう努めている。また、担当者を決め、関わりが深く持てるようにし、安心して職員との信頼関係を築き、長く継続できるよう努めている。</p>	<p>○ ご本人がホームの環境に慣れ、自分の居場所だと安心できるまで、職員が側でゆったりと関わられるような体制作りを行う。</p>
24	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受け止める努力をしている。</p>	<p>相談する家族の立場にたち、ゆっくり話を聞き、思いを受け止めるよう努めている。入居後の様子を定期的に連絡し、事業所としてなにかができるのか話し合いをしている。</p>	<p>○ ご家族からの要望や相談はスタッフ全員が周知し、受け入れられるよう、引継ぎや会議等で話し合いを持てるよう努めていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
25 ○初期対応の見極めと支援 相談を受けたときに、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	サービス利用前に、ご本人・ご家族との面談、施設見学を行い、関係づくりやニーズの把握を行なう。困難事例の場合は、行政や医療機関に働きかけ、問題解決に努めている。場合によっては他のサービス機関につなげている。	○	ニーズの優先順位をつけ、対応していく能力を高めていきたい。
26 ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している。	入居前に、ご本人に見学をしてもらい、納得して頂いた後の入居をお願いしている。価値観や好みを、ご本人やご家族から伺うことで、その人らしさを把握することを大切にしている。また、入居後は常に声かけをし、安心して頂けるよう努めている。	○	他入居者と馴染んでいけるよう座る場所等、各人個性に配慮し、時には職員が介入しながら、今後も雰囲気作りに努めていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27 ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている。	基本情報やアセスメントにより現状を把握し、自立支援に努めている。ご本人の得意な分野を活かし、時には子供や孫となり、共に支え合う関係を築けるような場面を多く持つよう声かけに配慮している。	○	ご本人の思いや、根本にある苦しみや不安、喜びを知ること努めていきたい。
28 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている。	毎月お便りを発行し、ホーム内の生活状況や変化などを伝えている。また、必要に応じて電話や面会時に通知している。月行事なども周知し、参加への呼びかけを行なっている。	○	入居者を中心に家族と職員が時間を共有し、支えていくことを大切にしたい。
29 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、よりよい関係が築いていけるよう支援している。	いつでも来訪しやすい雰囲気作りをし、行事(夏祭り・合同交流会・クリスマス会等)にお誘いしながら、よい関係が継続するよう努めている。	○	日頃の状況をこまめに報告・相談をし、関係が途切れないよう支援していきたい。
30 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会者に、面会簿記入への理解を求め、把握に努めている。馴染みの店での外食や買物支援のほか、入居前の町内会行事などへの参加など、ご本人を取り巻く人や支えてきた人たちとの関係が途切れないよう支援している。	○	ご本人やご家族との会話の中で、馴染みのもの等を聞き、継続に努めていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている。	利用者同士の関係については、心身の状況やその時の気分、感情で変化することが多いので、職員は注意深く見守るようにしている。	○	利用者同士の関係性を把握し、職員が調整役となり、みんなで楽しく過ごせるように努めていきたい。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている。	退居した方と職員は、直接関わりを持つことができていないが、管理者は必要時連絡を取ったり、定期的にお見舞いに行ったりして、関係を継続している。また、家族の相談を頻繁に受けている。	○	必要に応じて関係を維持していきたい。

Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント

1. 一人ひとりの把握

33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の好きなことは積極的に取り入れ、好きな音楽を聴いたり歌ったり、好きなことをして頂けるよう、ご本人のペースを大切にされたケアを行なっている。意思表示が困難な場合は、家族から情報を頂きながら本人本意にしている。アセスメントを独自のものにし、ご本人の意向をケアに活かせるよう努めている。	○	日々の暮らしの中から汲み取れるよう努力したい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前の生活状況、これまでの歩みを、ご本人の話や、ご家族・知人が訪時した際に、情報提供をしてもらっている。また、それらを基本情報、入居前情報として保存している。	○	入居前までの生活は、過去の介護支援専門員の記録などを参考にし、家族からの聞き取りも大切にしながら、正確に把握していきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている。	日常の様子から、できること・できないこと・わかること・わからないことの把握に努めている。また、心身の様子観察を記録し、その人の全体の把握に努めている。	○	職員全体が記録を把握し、定期的な見直しを行なっていく。

2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し

36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している。	ご家族から意向を聞き、プランに反映できるようにしている。定期的なカンファレンス、モニタリングを行い、介護計画へ反映させている。	○	担当職員がプランに対するモニタリングが行えるよう取り組んでいきたい。
----	--	---	---	------------------------------------

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
37 ○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、介護支援専門員の適切な監理のもとに、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している。	日々の記録を基にした3ヶ月毎のモニタリングと介護計画見直しの実施を行なっている。また、身体状況の著しい変化などに合わせて、当面の介護計画書の作成し、随時計画書の変更を行なっている。	○	日々の記録の内容充実を図ってきたい。
38 ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践、結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	個別ファイルを活用し、食事・水分・排泄等、身体状況の記録や日々の暮らしの様子、エピソード、ケア方法の変更等を記録している。勤務開始前に記録を読み、把握することを義務付けているが、職員全員が実施することはできていない。	○	日々の記録の簡潔化と、内容の充実を図ってきたい。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援			
39 ○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている。	病院受診やご家族の訪問、外出、外泊については、臨機応変に対応している。ご家族と受診時の通院方法、情報の伝達についても、電話連絡や毎月の手紙等で報告している。突発的な外出に対しても柔軟に対応している。	○	要望に応じ、柔軟な対応ができるように努めていきたい。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働			
40 ○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している。	運営推進会議を行っていることで、民生委員や地域住民の方との協力関係を築けるよう努めている。近隣の青少年教育施設や小・中学校の活動に参加させて頂き、支援している。地域生活を可能にするため、警察にも協力要請はしているが、普段から連携をとっているわけではなく必要時のみとなっている。	○	消防による避難訓練の指導などに応じて、今後も協力を頂けるよう取り組んでいきたい。
41 ○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用する為の支援をしている。	併設施設であるデイサービスのケアマネジャーと話すことはあるが、他のサービスを利用する支援は行っていない。	○	ケアマネジャーや他事業者と話す機会をもち、サービスの情報収集をし、生活支援に結び付けていきたい。
42 ○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している。	運営推進会議に地域包括支援センターの職員に参加して頂いており、情報交換や協力を頂いている。	○	運営推進会議を通じて、連絡を密にとり、情報交換や協力関係を築いていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援をしている。</p>	○	<p>受診後、家族と受診結果の情報の共有を今後も継続していきたい。</p>
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している。</p>	○	<p>認知症の専門医への受診の支援は、関係者間での情報の共有を綿密に行いながら、適切に行なっていきたい。</p>
45	<p>○看護職との協働</p> <p>事業所として看護職員を確保している又は、利用者をよく知る看護職あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている。</p>	○	<p>他医療機関の看護師との情報交換や助言を受けながら、医療活用につなげていきたい。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している。</p>	○	<p>利用者が入院した時に、安心して過ごせるよう、病院関係者との情報交換や相談に努めていきたい。</p>
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している。</p>	○	<p>重度化や終末期に対しての意志確認を段階的に行い、ご本人やご家族、担当医など関係者との話し合い、ホームとしての支援方法も話し合っている。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている。</p>	○	<p>医療機関と連携を図りながら、ご本人やご家族の意向も含め、事業所としてどう取り組んでいけるかを考えながら、チームとして取り組んでいる。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
49 ○住替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居宅へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住替えによるダメージを防ぐことに努めている。	住まいが変わる場合は、これまでの暮らしの継続性が損なわれないように、生活歴や生活環境、支援内容、注意点等を情報提供し、連携を図っている。	○	別の居宅へ移り住む場合、精神面に考慮し、十分な話し合いをしてご本人に納得して頂けるように努めている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50 ○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取扱いをしていない。	一人ひとりを考えながら声かけ、対応をするようにしている。個人情報やプライバシーを守り、記録などは他者の実名を書かないよう配慮している。言葉使いにも気をつけ、訪室する際は必ずノックをしている。排泄等に関わる対応や言葉かけには配慮をしている。(他者に会話が聞こえないよう配慮、尊厳を損なわない声かけ)	○	職員は、利用者の個々のプライドを傷つけないような態度や言葉づかいに、注意しながら対応するよう心がけていきたい。
51 ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや記号を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている。	利用者の力に合わせ、選択肢を用意し、ご本人のやりたいことを聞き、できることは実行している。発語のない利用者は、目配せや表情で意思を確認し、自己決定できるように支援している。	○	利用者が自己決定できるように支援していきたい。
52 ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一人ひとりのペースに合わせて過ごして頂いているが、希望に添っているのみだと、1日なにもせず過ごすことになる利用者もいるため、運動やアクティビティなどを提供し支援している。	○	体調など十分配慮しながら、ご本人に確認をとり、ご本人の過ごしやすい環境づくり、本人の思いを反映できるよう支援していく。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53 ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている。	月1回訪問理美容室に依頼し、利用者の希望を聞き、カットや顔剃りをお願いしている。家族にも面会時相談している。入居前の馴染みの店を利用希望の利用者には、希望に合わせて支援している。洋服選びもご本人の意志を尊重している。自己決定しにくい利用者には、着やすく、着心地のよいものを職員が選んで着て頂いている。	○	ご本人らしさが保てるように支援していきたい。
54 ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員がその人に合わせて、一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事が楽しくなるよう、ご本人の食べられないものや量などを聞き、工夫している。みんなで共同して食事づくりや片付けを行なうことで、食事に対して楽しみを持てるようにしている。	○	月に1度合同交流会を開催し、鍋や焼肉などのメニューを取り入れ楽しみを増やしている。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、タバコ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している。	好みのものが楽しめるよう提供している。日常的に利用者から飲酒・喫煙の希望はない。健康上の問題がなければ合同交流会等の行事で楽しんで頂いている。	○	ご本人の好みを聞き、取り入れ、日常生活の楽しみの一つになるよう支援していきたい。
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。	利用者の排泄パターンを把握し、トイレで排泄できるように支援している。訴えない利用者は時間を見たり、ご本人の表情を観察しトイレ誘導を行っている。ご本人の状態を把握し、日中と夜間のおむつ形態を変えて支援している。	○	トイレ誘導に拒否がある場合は、声かけに工夫をしたり、時間を少し空けて誘導し、失禁を減らしていきたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している。	入浴の予定はは決めているが、利用者の意向や状態に応じ変更するようにしている。	○	入浴を好まない利用者には、部分浴で近隣の温泉利用なども、利用者の希望に応じて支援していきたい。
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している。	日中は運動・アクティビティを取り入れ、夜間の睡眠につなげている。夜間の定期的な巡視を行い、安眠を確認している。夜間のトイレ誘導に着いては、眠剤服用の利用者は細心の注意を払うようにしている。	○	個人個人のリズムを大切にしながら支援をしていく。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている。	食事の準備、調理参加、掃除、花の水やり、縫い物、散歩、カラオケ、ゲーム、工作など、好みのことをしてもらったり、近隣施設(青少年教育施設・道の駅・市民会館)利用により、気分転換を図ってもらえるよう支援している。洗濯物を干したり・畳んだり、カーテンの開閉など役割が決まっている利用者には、感謝の気持ちをお互いに伝え合い、張り合いを持って生活して頂いている。	○	それぞれの役割や楽しみを把握し、支援していきたい。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	利用者ごとの金銭管理は実施しないこととしているが、金銭の立て替えは行っているため、買物の際には実際に選んでもらったり、支払いをしてもらえるようにしている。	○	家族の理解や協力のもと、金銭の所持を希望される利用者については、お金を持っている本人が管理をしている。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
61 ○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している。	季節により、支援内容が変化してしまうが、希望を募り、体調や天気を見て散歩やドラブ、買物など気分転換やストレス発散、五感を刺激することを支援している。	○	冬期間は、他ユニットとの交流も図りながら、屋内でのアクティビティを充実させていきたい。また、家族にも協力して頂き、支援を充実させていきたい。
62 ○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している。	年間行事の中で花見、さくらんぼ狩り、秋祭り、紅葉狩り、りんご狩り、初詣、外食など車で外出している。	○	ご家族の方との外出も支援していきたい。
63 ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族や知人からの電話をつないだり、希望に応じて利用者から電話をする支援をしている。手紙やハガキ、贈り物が届いたときはご本人にお見せし、保管して頂いている。	○	ご本人が希望される時には電話もして頂けるようにしている。
64 ○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している。	面会時間の制限はなく、ご家族や友人など都合の良い時間に来て頂き、気兼ねなく話せる空間を提供している。時間の許す方には食事やおやつも召し上がって頂いている。	○	ゆったりと過ごして頂けるよう雰囲気づくりや環境整備をしていきたい。
(4)安心と安全を支える支援			
65 ○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	勉強会・身体拘束委員会を開催し、職員全員で身体拘束の理解を深め、ケアに取り組んでいる。	○	身体拘束についての勉強会を継続し、職員同士での確認や指導をしていきたい。
66 ○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる。	鍵はかけていない。利用者が自由に出入りできるように開放しているが、転倒事故など危険防止のため見守り、付添いは行っている。居室の鍵はご本人の意思にお任せしている。夜間は巡視し安全確認をしている。	○	出入りの確認ができるようにすることで、安心して開放的な施設内外利用ができるようにしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
67 ○利用者の安全確認 職員は、プライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している。	昼間の訪室はノックし声かけするなどの配慮を行なっている。夜間も数時間毎に巡視し様子を確保している。物音がしたり、起きられたときはすぐに対応できるようにしている。	○	目配り・気配り・心配りを大切にし、職員間での声かけや、利用者の中で気づきを大切にし、安全の配慮に取り組んでいきたい。
68 ○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている。	利用者の状態に合わせて、注意が必要なものは職員で把握し、管理方法の取り決めをしている。薬や洗剤、刃物等は所定の場所での保管・管理をしている。	○	利用者の認知度やADLを考慮し、危険防止に取り組んでいきたい。
69 ○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐ為の知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。	事故があった場合は、必ず事故報告を作成し、事故原因と今後の予防策を検討し、家族への説明と報告を行なっている。毎月の勉強会でも取り上げている。個々の予測できるリスクはケアプランにて確認し見守り、介助を行い事故防止に努めている。複数の職員が薬のセット、与薬に関わり、思いこみによる誤薬を予防し、飲み込むまで見守っている。	○	利用者の状態を把握し、細心の注意を払い事故防止に取り組んでいきたい。
70 ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている。	緊急時の対応マニュアルがあり、周知徹底を図っているが、実際の状況に応じた判断ができるかどうか、職員は不安を抱えている。	○	スタッフ全員が速やかに応急手当ができるように研修や講習会に参加していきたい。また訓練も定期的に行い、急変や事故発生に備えていきたい。施設全体で夜間待機者を置き、いつでも対応できる環境ができていく。
71 ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている。	地域の消防署の協力のもと、初期消火訓練、夜間を想定した避難訓練を年2回利用者と共に行なっている。	○	定期的に避難訓練を実施し、避難が速やかにできるように身につけていきたい。
72 ○リスク対応に関する家族との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている。	常にご家族等に、一人ひとりに起こり得るリスクについて説明・相談をしながら、少しでも自由に自立に向けた取り組みをするように努めている。	○	なるべく利用者の状況を家族と共有して共に支援を進めていけるよう努めていきたい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
73 ○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気づいた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている。	定期的にバイタル測定をし、状況に応じて再検をしている。また、管理者・看護師に些細なことも報告をするようにし、職員間で共有し対応にあたっている。	○	小さな体調変化も見逃さないよう、普段の状況を把握し、気がつけるようにしていきたい。
74 ○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	服薬ファイルを保管し、職員が服薬内容を確認できるようにしている。個別記録に服薬チェック欄を設け、職員は責任を持って服薬介助を行なっている。薬の処方の変更になったり、臨時薬が出た場合は、通院担当職員が、詳細な報告書を作成し、確実な申し送りをしている。	○	看護師を中心に勉強会を開催するなどし、個人個人の服薬についての理解や支援に努めていきたい。
75 ○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけに取り組んでいる。	水分摂取の状況を把握し、不足しないように努めている。利用者に合わせ適度な運動を行なうよう働きかけを意識するよう努めている。朝の申し送り時に排便回数を確認、便秘の際は腹部マッサージや便秘薬で調整している。	○	排泄確認をしながら利用者に応じた取り組みをしている。
76 ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れやにおいが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている。	促してもご本人の意志で難しい場合があるが、毎食後の口腔ケアを大切にし、声かけ・誘導を実施している。義歯は就寝前に洗浄剤につけている。異常時は歯科受診にて対応している。	○	できるかぎり、毎食後の歯磨き・義歯洗浄を支援していく。
77 ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養士が立てた献立に沿って食事を作っており、個々の食事・水分の摂取量を個別記録に記入し、職員が情報を共有している。不足しがちなときは、代用品などで補うようにしている。水分摂取の困難な方にはゼリー・寒天などで工夫し対応している。	○	水分拒否のある方への支援に工夫を凝らし、目標量に届くように支援していきたい。
78 ○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症マニュアルを完備し、勉強会にて意識徹底を図り、予防に向けて取り組んでいる。インフルエンザワクチン接種は全利用者・全職員施行。ホーム入り口に消毒薬を準備し、外出時はうがい、手洗いを徹底し、ペーパータオル・マスク使用している。職員出勤時や面会者には手洗い・うがい・消毒を徹底し感染予防に努めている。	○	3ヶ月毎に委員会を実施し、職員に周知している。手洗いや消毒を1ヶ月前に行なっていく。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでい きたい項目)	取組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている。	定期的に食器消毒や、包丁・まな板・布巾等は随時漂白・消毒はされている。配送より届いた食材は、朝・昼・夕食分に仕分けし、冷蔵庫に入れ保管している。調理に際しての手洗いは念入りに施行。また、ペーパータオルの使用により、衛生管理に努めている。	○	週1回冷蔵庫掃除を行い、賞味期限や庫内の点検をしていく。台所周りについても清潔・衛生管理の徹底を図っていく。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり (1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている。	日頃から玄関は開放しており、玄関先にベンチやプランターを置いている。玄関内には季節の飾り付けをし、季節感を出している。	○	玄関は開放しており、中も見えやすくなっているが、安心して出入りできる玄関まわりの工夫を行っていく。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	季節にあった飾り付けや、トイレについてはセンサーで点灯し安心して利用できるようになっている。くつろぎの空間が持てるようソファや畳の空間を設置し、工夫している。	○	生活感や季節感があるものを活用し、フロー一等の飾り付けや家具の配置を利用者と一緒に考え、利用者が自分の家だという意識を高めてもらえるように取り組んでいきたい。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、一人になれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	フローにソファがあり、気のあった利用者同士で会話したり、テレビを見たり、昼寝したりしている。一人になりたい方は自室に戻られることが多い。	○	自分で意思表示が難しく、落ち着かないときには場所を変え、気分転換して頂くよう配慮していく。
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使いなれたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みの日用品が持ち込まれており、自分らしい居室となっている。必要であれば、仏壇や写真等色々な大切で思い入れのあるものを居室に置き、安心して過ごして頂いている。	○	利用者の希望を確認しながら、居室環境を整備していく。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないように配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている。	定期的な換気と濡れタオルによる湿度の調整を行なっている。室温調整は温湿度計をチェックし管理している。トイレは換気扇と消臭剤を使用することで、においに配慮している。	○	状況にあった換気を行い、内外の温度差に配慮しながら、温度計を目安に換気を行なう。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んで きたい項目)	取り組んでいきたい内容 (既に取り組んでいることも含む)
85 ○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活を送れるように工夫している。	全館バリアフリーにて、フロアー、廊下など壁伝いに手すりがついている。トイレも手すりがついており、車椅子の利用も使いやすい広さがある。	○	手すりの活用、運動器具の有効利用をしたい。
86 ○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している。	表札や飾り物を置くスペースがあり、場所の間違いや混乱を防ぐ配慮をしている。	○	利用者の状況を観察、確認しながら表示の工夫などして混乱のない環境づくりをしていきたい。
87 ○建物の外回りや空間の活用 建物の外回りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている。	裏庭で花壇やプランターを作ったり、野菜を栽培している。玄関前の駐車スペースは散歩時休憩できるようベンチを設置している。また、イベント(夏祭り)を行ったり、避難訓練時は避難場所として利用している。	○	ベランダにも花壇やプランターを置き、季節感を持っていただけるよう工夫していきたい。

V. サービスの成果に関する項目	
項目	取り組みの成果
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんど掴んでいない ②
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない ②
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿が見られている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ③
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている ①ほぼ全ての利用者 ②利用者の2/3くらい ③利用者の1/3くらい ④ほとんどいない ②
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています ①ほぼ全ての家族 ②家族の2/3くらい ③家族の1/3くらい ④ほとんどできていない ②
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない ③

V. サービスの成果に関する項目		
	項目	取り組みの成果
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている。	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない ②
98	職員は、生き生きと働いている	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない ③
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない ③
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどいない ②

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(日々の実践の中で事業所として力を入れて取り組んでいる点・アピールしたい点等を自由記載)

認知の症状が進まれている方も増えていますが、職員が一丸となって介護に取り組み、家庭的な雰囲気の中で過ごして頂けるよう努めています。また、行事も多く開催し、利用者の楽しみのひとつとなっており、さらに夏祭りやクリスマス会は、地域の方々との交流の場となっています。毎月のユニット合同交流会は、利用者・家族・職員間で定着しており、一緒になって楽しむことができます。アクティビティも豊富に取り入れ、さらに貼り絵やゲームなども楽しんで行なっています。利用者職員と一緒に考えた、独自の広報誌も作成し、町内の全世帯へ配布、さらに近隣施設に設置していただく等、ホームを知ってもらえるよう取り組んでいます。また、ホームページも開設し、利用者の日常の様子を、もっと多くの方に身近に感じていただければと思い、ウェブログで日記もつけています。ご家族の方からは、「遠くにいっても様子がわかって嬉しい」との声を多数いただいております、利用者の日々をゆったりとした時間の中で過ごしている姿を汲み取っていただけていると思います。<http://gh-kingin.com>